

## つくばヒト組織バイオバンクセンター公開情報申請書

\*この申請書は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」第12.1の指針に基づき、つくばヒト組織バイオバンクセンターホームページで試料・情報を使用して実施した課題について公開するためのものです。

\*項目の後に（公開）と書かれているものは公開されます。（公開可 公開不可）と書かれている項目は公開の可否を選択して下さい。

課題番号（公開）：
研究課題名（公開）： 様々な組織における転写因子 MafB の発現解析
実施代表施設（ <input checked="" type="checkbox"/> 公開可 <input type="checkbox"/> 公開不可）： 実施責任者（ <input checked="" type="checkbox"/> 公開可 <input type="checkbox"/> 公開不可）：
実施期間（公開）：西暦 2020年6月（倫理委員会承認後）～ 2022年4月
対象となる試料・情報（公開）ヒト肺癌、肝臓癌、膵臓癌、大腸癌組織標本 「診療で採取した組織、血液をつくばヒト組織バイオバンクセンターで保管することについてのお願い」（2016年9月以降）、及び「筑波大学附属病院で診療を受けられる患者さんへ」（2016年9月以前）により同意の得られた患者試料・情報 <input checked="" type="checkbox"/> 組織（対象臓器：肺、肝臓、膵臓、大腸 対象疾患：肺腺癌、肝臓癌、膵臓癌、大腸癌） <input type="checkbox"/> 血液試料 <input type="checkbox"/> 臨床情報
研究の目的、意義（公開） 転写因子 MAFB はマクロファージに発現するタンパクである。マウスにおいて MafB はマクロファージ自身のアポトーシス阻害に必要であり、動脈硬化発症や自己免疫疾患の抑制に関わることわかっている。当研究室において MafB がマウスの腫瘍随伴マクロファージに強く発現することが明らかとなっている。またヒトにおいて腫瘍随伴マクロファージは悪性度の高いがん組織に多く存在することが知られている。このことから MAFB はヒトがん組織において腫瘍随伴マクロファージのマーカーとなる可能性がある。
実施方法（公開） 筑波大学附属病院 ヒト組織バイオバンクセンターに保管されているヒト肺癌組織を悪性度の高いもの10検体、悪性度の低いもの10検体を、抗 MAFB 抗体、抗 CD163 抗体および抗 CD204 抗体を用いた免疫染色を行う。MAFB 陽性かつ CD163 あるいは CD204 陽性細胞の数をカウントし悪性度の高い組織と低い組織で有意な差が見られるかどうか検討する。

\*情報公開の目的は、試料提供者が自分の試料が使用されている可能性を知り、同意の撤回をできる権利を持つためのものです。実施内容について当センターに問い合わせがあった場合は、回

別記様式第 2 号（第 4 条第 2 項関係）

答について問い合わせをさせていただく場合があります。